蓮沼中学校・松尾中学校統合準備委員会 第2回 PTA・通学部会要点記録

1. 日時	令和2年10月12日(月) 18時から19時31分
2. 場所	松尾IT保健福祉センター
3. 出席部会員	20名(欠席1名)
4. 次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 通学路・通学方法について (2) 制服・体操服・ジャージについて (3) その他 ・次回開催日時について 4 閉会
5. 事務局	学校再編推進室

議題についての概要は次のとおり。

①通学路・通学方法について

【事務局の説明】

- 現在の通学路について説明
- 公共バスについて説明
- 山武市及び近隣の自治体の小中学校での通学バスの運用状況について説明

【発言の概要】

- ・松尾中学校まではどのように通学しているのか。
 - 公共道路、校内の使用について学校から説明。
- ・公共バスの乗車率はどれくらいか。
 - (事務局) 乗れても20名ほどである。
- ・公共のバスを使うことになった場合、大平の生徒も使う可能性があるのでは、そうすると定員オーバーになってしまう。加えて、一般の利用者にも影響が出る。
 - 公共バスのダイヤとルートについて、公共バスの中学校までの直接乗り入れのルートは交渉していないのか。
 - (事務局) バスダイヤとルートについてはこれからの交渉である。
- ・町村合併前に使っていたバスがあるはずである。それらは教育委員会で使っていると思うが、そのバスの利用というのは検討されていないのか。
 - (事務局) バス自体はかなりの年数使っているため、修理を繰り返している。市の財政課で持っていたバスなのだが、教育委員会で引き継いで学校を中心とした使用となっている。回転率は高い。問題として、いつまでそのバスを利用できるのか、今後買い替えるのかという点が挙げられる。
- ・バス会社に外部委託するという形か。
 - (事務局) 松尾小学校でのケースはバス会社に委託している。運転だけ委託すると車の管理の事務的な負担や、バスが使えないときの代車の件もあるので、通学で毎日使えるかについては不安が残る。
- ・公共バスの場合、一般の客が多いと生徒が乗れなくなる。空港シャトルバスを利用する場合、

降りる場所は松尾の工業団地なので、生徒がああ坂道を上るのは危険である。

- ・通学バスのメリットは生徒を安全なところまで運べるところである。生徒を集めてバスに乗せるとしたら蓮沼交流センターの近くが良い。あそこなら蓮沼中学校も近いので、いままで通り安全に通えるのではないか。自転車で暗い道に行くのは危険である。通学バスは学校の要望に合わせた運行が出来るが、公共バスはそうはいかない。やはり通学バスで学校の要望に沿った運行をした方が良い。
- ・自転車通学だと部活動に参加できなくなってしまうデメリットがある。
- ・公共バスで学校の中に入らなければどうか。
 - Uターンをする必要があるので、中に入らないといけない。
 - Uターンする必要がないルートをとれば良いが、難しい。
- ・公共バスは一般の方の混み具合によって乗れなくなる可能性があるので、選択肢から外した方が良い。
- ・公共バスは人数制限があり、基幹バスは小型なので全員が乗れない。一番良いのは通学バスを出すことである。
- ・蓮沼の全員が乗るとなると60人前後になり、コロナの関係で密を防ぐために、60人全員が乗る場合は1台では難しい。30人で学校行事をした際も、2台のバスを使った。60人の場合、何台バスを使うのかわからない。コロナでなくても2台は必要である。台数もはっきりと考えていただきたい。
- ・公共バスを使う場合、部活動が出来なくなってしまうので、主な対象は3年生になる。部活動をする場合、生徒の生活に合わせた通学バスが理想である。
- ・(部会長) 自転車通学は通学時間が伸びて安全面に不安が残ることがデメリットである。他にも自転車のデメリットを挙げていただきたい。
- ・はにわ道の歩道は凸凹しているので舗装しないといけない。
 - (事務局) 危険箇所は確認して要望を出していきたい。
 - かなりの範囲なので予算がかかる。修繕を予算化して未来の投資をした方が良い。
- ・遠距離通学は安全面の他に、体力面で不安が残る。中学1年生にとって部活動と授業をした後の通学は大変である。
- ・自転車通学について、松尾中学校には何km以上は自転車を使えるといったような基準はあるのか。
 - 無い。
- ・大平の生徒は自転車に乗っていると思うが、どれくらいの距離の生徒が乗っているのか。
 - 松尾小学校付近に住んでいる生徒も自転車を使っている。自転車を降りて坂を歩く距離よりも、乗っている距離が長い生徒は自転車通学である。

自転車通学の際に学校が推奨しているのは、横断歩道があるところを通ることなので、そこを目指して通学している。国道を通る生徒はほとんどいない。安全なところから抜けて学校に向かう。国道は県の管轄で、整備が行き届いておらず、通るのに危険を伴う。
- ・通学距離が6kmを超えていることが、自転車通学のそもそものデメリットなのではないか。
- ・(部会長) 公共バスについて他に意見はあるか。
- ・公共バスについては全員が乗れる保証がないのが問題である。
- ・公共バスはその都度バスの料金を払わないといけないが、それはどうなるのか。
 - (事務局) 使うことになった場合、料金の補助も考えられる。しかし規模を考えると補足の手段でしかないので、全員に補助をするのは難しい。全員が公共バスを使えるのなら全員に

補助できる。

- ・公共バスを利用することも可能ということか。
 - （事務局）そうである。通学バスに乗り遅れた時等に利用できると考える。

山武中学校の統合の際は生徒のほとんどが 6km 以内ということに加え、バスが通れるルートをつくらうとすると、道路事情により、自転車だと 6km でもバスのルートで 10km になってしまう場合もあり、車で送るほうが良いということになった。

通学バスが出るのであれば、利用者が少ないというのは避けたい。もし通学バスになった場合、毎日使っていただくような形になるのか伺いたい。
 - 通学バスが出れば、ほとんどの生徒が使うということで良いと思う。
- ・蓮沼中学校のあたりが家から遠いとなると、そこまで連れて行くのは保護者にとって大変かもしれない。もし乗車率が低くてもしばらくは出していただきたい。

公共バスはデメリットが多かったので、選択肢から外していただくのが良いのではないか。
- ・（部会長）今回の協議で通学バスということに大筋が決まれば、そのことについて話し合いできると考える。

いままでの協議からすると、自転車通学は難しいのではないかという意見が多い。公共バスも全員が乗れないというデメリットがある。これをもとに教育委員会に意見を報告すれば通学バスになると考える。
- ・通学バスは学校に合わせてくれるとのことだが、スタート地点を決められるのはメリットである。
- ・大平地区の生徒を対象にすることも可能ではないか。
- ・通学バスなら部活動にも参加できるはずである。
- ・便数を少なくしたほうが安くできる可能性もある。仮に通学バスになったとして、部活動に間に合わないという話があったが、蓮沼交流センターに集合すれば 2 便出せるとか、工夫すれば部活動を補足したうえでコストを削減できる。

また、学校までは自転車で通学できているので、生徒を一か所に集めて乗せれば、小学校のようにバス停を巡回するよりもコストは少なくなる。なるべくコストを削減して部活動に間に合う方法も、話し合えば出てくると思うので、そういうことも今後必要になる。
- ・（事務局）貸切バスの料金は国が額を制度として決めている。大型、中型、マイクロで値段が違う。大型 2 台の場合と大型とマイクロを組み合わせた場合だと値段に大きく差が出る。中型 2 台よりもマイクロと大型を組み合わせたほうが安くなる場合もある。ルートの組み方によっても変わってくる。そのあたりは議論していく中で、効率的な方法について考えていただきたい。
- ・蓮沼地域の生徒については、現在通っている中学校までの距離は自転車で通って、拠点はどこにするかはわからないが、そこから通学バスを使って通学するのはいかがか。そうすると、今の通学路は安全が確保されていると思うので、統合後の学校までの危険箇所を補修する必要はないはずである。

前回の会議で、通学バスで一軒一軒回るという案もでたが、一番初めに乗車する生徒の乗車時間を考えると、やはり一か所に集めてバスに乗せたほうが良い。

大平地区の生徒も通学バスの対象にという発言があったが、蓮沼寄りの地区では通学バスに乗りたくない方がいるかもしれない。しかし乗車時間にとられるのなら自転車で通学した方が良い。自転車で通学するということは体力をつけることにもなると考える。
- ・松尾地区の生徒は乗車対象にしないと予め言った方が誤解がない。
- ・大平地区の生徒は何時に学校に向かうのか。

- ▶登下校の時間について説明。
- ▶それを考えると通学バスで蓮沼交流センターまで行って、そこから自転車で帰っても、バスに乗る時間は10分程なので、現在と大きく下校時刻は変わらないと考える。
- ・駐輪場を作るといふことか。
 - ▶まだ通学バスとは限らない。
- ・(部会長)他に意見はあるか。
 - ▶発言なし。
- ・(事務局)これまでの意見を復唱。
- ・自転車通学のメリットとして体力がつくことが挙げられているが、あくまでも学校からではなく、バスの乗降の起点からである。知らない人がそこだけ見ると、蓮沼地域から学校まで行くから体力がつくのではないかと誤解してしまう。拠点から家までは自転車で通う必要があると注釈が必要である。
 - ▶おそらく通う生徒もいると考える。
- ・過度に通学距離が長いと負担が大きいということが言いたい。体力的というのはそういう意味である。
- ・メリットから体力向上というのは消してしまった方が良くはないか。
- ・自転車通学は時間の縛りがついてしまうのではないか。
- ・多少遅れても自転車であれば、急げば時間を取り戻せる。しかしバスの場合は、遅れると置いていかれてしまう。
- ・(部会長)そのほか事務局から補足はあるか。
- ・(事務局)本日は大筋の方向性が見えたということで、この議論の結果を今後、教育委員会に諮る。

②制服・体操服・ジャージについて

【事務局の説明】

- 現在の制服、体操服、ジャージについて確認
- 新規に作成する場合のスケジュールについて説明
- 山武中学校の制服等が決定するまでの経緯を説明

【発言の概要】

- ・スクールバッグや上履き等は検討するのか。
 - ▶(事務局)そのあたりの議論もしていただきたい。
スクールバッグは各学校で決まりがあるのか。
 - ▶松尾中学校はスクールバッグが決まっている。
 - ▶蓮沼中学校は決まっていない。
- ・(事務局)次回以降にそのあたりも検討していただきたい。学年ごとのスカーフの色等も議論になり、両学校に教えていただきたいことがあるので、ご協力をお願いする。
今の体操服等に何か改善点等はあるか。
- ・大平小学校のハーフパンツは松尾中学校と同じものか。
 - ▶同じである。
- ・松尾小学校のハーフパンツは統合する前から中学校と同じものか。
 - ▶(事務局)松尾中学校区の小学校にはハーフパンツを松尾中学校と同じにする流れがある。

松尾小学校の体操服を検討する際も、松尾中学校の方向性が分からないので、ハーフパンツについては松尾中学校と同じものにするということになった。それ以外については新しいものを着ている。

- ・松尾小学校の統合の際、最初は価格が低いものを求めていたのだが、最終的には機能性を重視するようになった。中でも速乾性や耐久性が重視された。
- ・(事務局) 次回は新しいものを作るのか、作るとしたらどう進めて行くのか協議をお願いしたい。

③その他

【事務局 資料に基づき説明】

○次回の開催に日時について説明

【まとめ】

- ・第3回 PTA・通学部会は11月6日（金）に開催する。
- ・通学方法については、通学バスが良いという方向性が確認された。次回、通学路等について継続審議する。
- ・次回は制服、体操服、ジャージを新規に作成するかについて協議する。

終了時刻 19時31分